

授業参観アンケート回答結果について

平成24年6月18日(月)から6月30日(土)の期間に実施された授業公開に対するアンケート調査にご協力いただきまして誠にありがとうございました。お蔭様で多数の回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

【質問1 に対する全回答】

(機械工学科)

- 講義資料の事前配布 (web などを利用) を検討したいと思う。また、必要に応じて板書やパワーポイントのペン機能などの手書き要素を入れることも重要であると感じた。一方的な講義にならないように、質疑応答をしたり、学生からの発言を促したりするような講義ができるようにしていきたいと思う。また、発声にも注意して、引き締まった空間を作れるように意識していきたい。
- ・授業の最初に小テストを実施し、学生の理解度を確認する授業があった。これによって当日の授業内容を工夫できることから、有益と思われた。
・テキストを指定するとともに、当日、補助的な講義資料を配布する授業があった。この配布により、学生の理解が深まることから、有益と思われた。
・ゆっくり、かつ話と話の間に適当に間を置いて話をする授業があった。この話し方により、受講生にも十分話の内容が理解でき、有益と思われた。
- 分野による違いもありますが、時によってはプリントを用いても良いかもしれないと思いました。
- 板書の文字の大きさやノートを取るための時間など主に板書に関する点を再確認したいと考えました。
- 大人数が出席する講義では教室が広く学生と物理的に距離が遠いため、淡々と授業を進めてしまう恐れがあるが、講義の途中で理解の程度を学生に問いかけることで、学生に良い意味での緊張感を持たせ、講義への集中を促すことが可能であると感じたので、このことを心掛ける。
- 社会と技術者の関連について、事例に基づいてお話をされていました。学生も興味をもって話を聞いていたので、参考になりました。
- 受講人数が多い講義の場合は、学生の理解状況はどうなっているのか、共通した問

題点は何であるかなどを注意して確認するようにしていきたい。

- 今回の授業を参観して、自分の授業に参考になると感じた点、改善した方がよいと感じた点については以下の通りです。
 - (1) 話し方(説明について)が丁寧でゆっくりであること。
 - (2) 授業で大事なことは板書です、きれいな楷書で黒板に書くこと。
 - (3) 見やすく、情報量が適度なプレゼンテーションを作成すること。
- 他人の講義の説明の間合いの違いなど、非常に参考になります。学生にとって、どこで内容について注意がどこで喚起されているかについて、いつも注目して参観しております。
- ・講義内容を厳選し、限られた講義時間の中で必要な知識を受講者に伝えられるよう工夫したい。
 - ・板書中心の授業では、学生への質問や授業と関連した予備知識の話をする等、授業展開によって学生の受講態度が大きく変わると感じた。学生の興味、関心を引き出すため、メリハリのある授業を構築していければと思う。
- 学生とアイコンタクトを取りながら、講義を進めるように心がける。
板書の字を大きく書くように努力する。
演習を行う際に、正解に至るステップを整理しながら、学生と対話形式で確認して進めることを試みる。
- ・小テストとその結果の授業進行に対するフィードバックを行ってみることにする。授業当初に決めた授業進行を変更してもよいのか疑問に思っていたが、学生の理解を優先することを試みてみたい。
 - ・また、各部屋で無線 LAN が使えるようになり、学生もパソコンが必携になったため授業中の Web ブラウジングが目立ってきている。授業中に、ずっとストリーミングのアニメを見ていた学生もいた。対策をそろそろ考える必要があると感じた。
 - ・これは自分の授業の改善の話ではないが、板書の効果を得ると同時にプロジェクターの効果的利用のために、スクリーンが教室前方の脇の方に設置されていると良いと思った。そうするとプロジェクタと板書を併用することができる。板書を中心に授業を行っている教員が多いことがわかった。次年度は、板書を中心に授業を行うことをトライしてみたい。
- ・授業とは関係のないことをしている学生がいた場合には適切に注意を与えたほうが良いということを改めて実感しました。
 - ・講義の際は PowerPoint やビデオを用いるよりは、やはり学生の手を動かさせるように板書したほうが効果的であると思いました。
- ・板書がきれいなので、見習いたい。
 - ・板書と説明をきっちりとわけている(板書中は説明しない)と、学生は、ノートを取りやすい。

- ・ 予め課題を自習させておいて、その解説を授業で行うやり方は、授業の進行を早くしなければならないときに有効である。
- ・ 変数の書き分けがわかりやすく、数式展開を追うことが楽であった。また、数式展開中も、数式のどこをどのように変形するのかについて、指し示しながら行っていたのでわかりやすかった。
 - ・ 演習問題を予め配っておくことで、講義のポイントを明らかにできるということでもよいと思った。また、解答を配布した問題用紙に記入させて提出させており、レポートにしないことで、学生を講義に集中させる効果があると思った。
 - ・ 参観したもう1つの講義では、演習問題もホワイトボード上にちゃんと書いており、その後、正解を示すことで、問題と答えを対にして、学生は記録できるという点でもよいと思った。教科書に載っている問題であれば、私は正解だけ板書することが多いため、この点、参考になった。
- 学生とのコミュニケーションを向上させるために、学生からの意見ばかりでなく、自分が気がついた点をメモとして残しておくようにしていきたい。
- 今回見学した授業は、進め方、説明がゆっくりで丁寧であったのでわかりやすかった。私の授業でもゆっくり丁寧に説明するよう改善していきたい。
- 授業の進行速度を考えると、黒板やホワイトボードに手書きで授業を進めた方がよいと思った。

事前に黒板やホワイトボードの枚数を確認した上で、板書の仕方を考えるべきだと感じた。

前回の課題や宿題の解説にもっと時間をかけた方がよいと思った。

(電気電子システム工学科)

- 自分も講義で使う55番教室の授業を一番後ろから参観したが、黒板の文字が小さくならないように十分気を付ける必要があると感じた。
- 自分はテキスト(配布資料を含む)とPPで講義をしているが、今回、板書で講義をしている講義を見学し、聴講者にとって手を動かす機会が多い板書の講義の方が、教室全体の雰囲気は活発になり、良い影響があるかもしれないことに気づかされた。見学した講義は、単なる板書ではなく、重要な内容を的確に伝える工夫もしており、それも非常に参考になった。
- 基礎科目では、板書が多いことがわかりました。板書の仕方は、授業において重要であることが再確認できました。
- 学生の理解を深めるために、演習時間の必要性がわかった。また、ただ単に演習時間を設けるだけでなく、その場で学生の理解度を把握し授業内容を修正していけるようにしていきたい。

- 式の導出過程等について、もう少し丁寧に記述するようにしたいと思います。

講義内容はパワーポイントを使用していますが、学生の理解を助けるためには、黒板を併用することが大事であると感じました。

- ヒストリカル、フィロソフィカルな説明の効用は認識していたが、その具体的表現は多様であり、参考になった。また、演習の進め方も、まとめてやらず、一問一問進める湯方も取り入れたい。
- ゆっくり丁寧な説明をすることと、講義資料をより充実させる必要があると感じた。
- 授業の進むスピードは自分よりも遅いのが印象的でした。全員がついてこれるスピードでゆっくり着々と進めることが大事だと考えるようになりました。
- ・出席の取り方: 毎回演習問題を課し、それを集めることにより出席を取っている。
・プロジェクタを使った講義は進行が速くなりがちであるが、10枚程度を丁寧に説明している。枚数を抑えることが重要。
・黒板の字を大きく、また複数面の黒板を順に使う。
・授業の先頭で、前回の復習に時間をかける。
- ・自分自身、板書が主体の講義とプロジェクタ主体の講義を行っている。
板書が主体の講義では、黒板に書く分量が他の先生に比べて多く、スライド式黒板の使い方も他の先生に比べると下手であると感じた。おそらく、講義ノートは黒板の板書に合わせて作り直す必要がありそうだ。
・プロジェクタ主体の講義では、プロジェクタ原稿を学生がWebから取得できるように工夫しているが、穴埋め式の講義資料を準備するに至っていない。講義中に学生の集中力を持続させるためには穴埋め式の講義資料を準備するのが1つの方法であることがわかった。
・工-56、工-54の教室で、プロジェクタと板書を併用した講義を行おうとする場合、照明のスイッチが遠くに有り照明のON-OFFが行いにくい。ワイヤレスでON-OFFできる照明の設置をお願いしたい。
- 今回参観した授業については2つとも、授業の進め方に時間的なゆとりがあっというらやましく感じました。このくらい余裕のある授業であれば学生の理解も十分に期待できるのだと思います。自分の授業でも出来る範囲での改善を図るように心がけるつもりです。学科でのカリキュラムの編成にも原因があると考えられるので、今後は学科で検討しなければならないようです。また、情報システム工学科では、これまで参観した限り、総じて良い授業が行なわれています。学科全体での取組みがなされていることなので、その辺りについて説明される機会を設けていただければよいと思います。

(情報システム工学科)

- 学生にノート、メモを取らせるときの間の取り方は参考になりました。
また、資料作成のセンスはとても重要なことだと感じました。使用するフォントサイズ、フォントタイプ、背景色、図の配置等、受講する学生にとって、いかに受け入れやすい、また、取り組みやすいものにするかは、現在では考慮すべき重要なファクターであると思います。
- 講義を行う部屋の大きさ、設備、それに受講者数を考えて、授業の方法を検討する必要があると感じた。スライドを使うことが多いが、その見やすさに注意する必要があると思った。
- 合間に演習を挟むなど、受講者を飽きさせない工夫が参考になった。自分は結構カンペに頼っているので、カンペを見ずに授業ができるようになればと思った。
- ・講義で話す速度を調整する必要があると思いました。自分の講義は少しペースが速いので、ゆっくり話すように心がける必要があると感じました。
・学生の理解度を深めるために演習は重要であると思いました。
- 基本的な知識を教えなければならずありきたりの話になってしまうが、そこにもう少し工夫ができればよいと思いました。例えば研究の内容も含めた話をしたいと思いました。しかし、私が担当する授業の性格上、教えるべき知識が毎年毎年増えていく状況であり、工夫が必要だと感じています。
- ・出席の取り方：毎回演習問題を課し、それを集めることにより出席を取っている。
・プロジェクタを使った講義は進行が速くなりがちであるが、10枚程度を丁寧に説明している。枚数を抑えることが重要。
・黒板の字を大きく、また複数面の黒板を順に使う。
・授業の先頭で、前回の復習に時間をかける。

(応用化学科)

- ・学生の理解を確認しながら、講義を行う。
- ・学生に、どこまで、理解すればよいか、ガイドラインを説明する。
化学との関係を説明する。
- 講義資料のWEBでの配布
- 1) 講義内容にメリハリをつけることで、学生に理解して欲しいことを明確に示したい
2) 板書に赤文字は意外と見にくいことが分かったので、改善したい。

- 1) 学生に理解して欲しいことを明確に示す工夫をしたい。
- 2) 黒板に使い方が参考になったので、改善したい。
- 学生にどんどん質問して、授業に巻き込んで積極的に参加させている様子に感銘を受け、参考にしたいと思いました。ただし、学生からは的確な答えが返ってくることはまれであったこと、また、やり取りにかなり時間をとられていたこと、の2つを考えると、どの程度質問に時間を使うべきかについては、一考の余地があると感じました。
- 大教室では常時ピンマイクを付ける方が良い。時間の節約上止むを得ないことが多いが、板書中の説明はやはり聞き取りにくい。学生の理解のためには、使用することが好ましい。
板書は少しでも丁寧に、見やすくすべきことを再認識。
- 教える内容をあまり欲張らず、基本で重要なところを今まで以上に丁寧に説明したほうが良いという印象を受けました。とは言うものの余裕のある学生に対しては、関連するいろいろな考え方や結果を伝えたい気がありますので、雑談は一回の講義に付き一度程度に限るあたりが妥協点かと感じています。また、今回参観した中ではマイクを使われている先生は居なかったのですが、以前の参観と比較すると、たとえ教室は狭く聴講生が少なくても、私の場合はマイクを使ったほうが良いように思いました。
- ・課題などをうまく活用して学生との対話を取り入れることで、興味・意識を高める工夫を行いたい。
・板書をどこまで書くか、教科書とのバランスを考えていきたい。
- 授業展開をゆっくりしたものにする。学生の理解に要する時間を十分に取る。
- 特にないが、板書と液晶プロジェクターのどちらで説明すべきか迷うところである。液晶プロジェクターの利用は、板書をしなくてすむため、時間的余裕が生まれ、丁寧な説明が可能であると感じた。しかし、特にスライドのコピーが配られている場合、筆記の必要がなくなり、忘れやすい記憶になるのではないかと危惧する。
- 私自身も学生と目を合わせて語りかけるような講義をするよう努力していますが、今回参観させていただいた先生方は自然にそれができているように感じました。黒板に張り付く時間があまり長くないようにし、学生の席近くまで足を運んで、一人一人に話しかけるスタイルはやはり望ましいと再確認しました。
- 講義されている先生が、非常に物理（講義の科目）が好きだということが伝わり、それが講義を聴く学生の興味にも影響しているのではないかと思った。自分もそのように学生に話ができたらと思った。
- 自分で良く理解しているものこそ、説明のときに相手（学生）に伝わり易く工夫する必要があると思った。自分でわかっていることは、流れるような流暢な説明ができたとしても本人は思いがちだが、案外流暢な説明ほど相手には伝わりにくいということ

がわかった。

- 毎回、コメント用紙を配り、学生の理解度や不満をフィードバックしながら講義を進めていた点に感心しました。私も、授業アンケートだけでなく、半期に数回、学生からのコメントを取ることも良いアイデアだと思いました。
- 講義内容のボリュームの多さと、学生の理解度とのバランスを図ることが難しいと思った。教員と学生間で一方的でなく、双方向のやり取りを細かく行い、毎回の授業において細かな修正が必要であるのではないか。
- 黒板の使い方の工夫、講義時にマイクなどを使い、講義を受けやすいような工夫を見習い、改善しようと思いました。

(機能材料工学科)

- ・板書を丁寧に大きく書くことを心がける。
・板書の内容を吟味して量を減らす。
- 後ろの方で聞いていない学生に対して厳しく指導した方が良いと思いました。
- 普段より講義が一方通行にならないように心がけておりますが、他の先生方の講義を拝聴し、まだまだであるとの印象を持ちました。少し時間を取ってでも学生が実際に手を動かして演習問題を解く時間を作るよう改善したいと思いました。
- 自分の喋るスピードが早いようですので、少し調節した方がいいとは思いました(ただし、早口なのは承知しているので、録音して公開することにより、対応はしております)。
- 教員の個性に依存するところであり、教員個人個人が異なっていていいことであるが、学生との共通の話題となりうる、他の教員の(批判的内容でない)話題を取り上げていたのは参考になった。
- 教科書のクオリティに関して、学生に注意をされていたのは、参考になった。教科書にもミスがあるという事実をしっかりと伝えておく必要がある。
- ホワイトボードの使い方や声の出し方等は参考になりました。また、プロジェクターの使い方も参考になりました。
- ・教室の構造や受講生数を意識した板書の仕方(文字の大きさ、図の明瞭さ)や授業ペース、演習問題の入れ方。
・問題提示時の巡視。(学生の回答状況に加え、遅れてくる学生などもチェックできる。)
・演習問題の実施。(学生が問題を解くという達成感や満足感を得られる側面もある。)
- ホワイトボードに書く、分量、内容(文、図、数式等)のバランスを再考したいと思った。

(建設工学科)

- 教室が広いと声はマイクで対応できるが、やはり距離感があることを改めて感じた。できるだけ狭い教室を用いる等の工夫が必要。
- 当たり前ですが、聞きやすく話すことにつきます。
- ・私の講義では、自由に座れるようにしているので教室後ろばかりに学生が座ってしまいます。今回授業参観で見ると、後ろでは（予想通り）他講義のレポートを書いたり PC を打ったりしていました。一番だらしなく思えたのは机の上に資料も広げないまま、iPhone 等のスマホをだらだら（？）といじっている学生で、複数人おり、出席だけが目的なのかと思いました。
 - ・受講者があまり多くない場合に座席指定制をとっている講義がありましたので、試してみたいと思います。指定席よりもっと前に座りたい学生用に最前の 2-3 列に自由席を設けることもできそうです。
 - ・スクリーンで ppt を投影するのと板書するのとのバランスを考えたいと思いました。板書を増やしたいと思うのですが、板書には時間が掛かるし、何より幾つかの教室ではスクリーンを使うと板書できる面積が殆どなくなってしまいます。といって投影中にスクリーンを上げてプロジェクタの光を止めてちょっと板書するのも困難です。スクリーンとホワイトボードが両立する教室を望みます。
- インターネットの動画を講義資料とする方法は参考になった。
- 端正な板書法は参考になった。
- 今回参観した講義では、自分も同じようなスタイルを取っているため (ppt を配布資料として講義展開)、目新しいものはなかったというのが正直な感想である。
- 教員や TA に自由に質問して良いというスタイルで演習授業をやっていますが、こちらからももっと学生に働きかけていきたいと思います。

講義資料にはパワーポイント、学生からの意見を聞いての回答には板書、と併用しているのを見て、自分も両方を効果的に使っていきたいと思いました。
- 学生との双方向性を持った講義とするようさらに気をつけたい。
- 比較的板書が多く視覚的に分かりやすい情報が不足していると考えられるため、ppt 等でそれらを補った講義をする必要性を感じた。
- 普段はパワーポイントを用いた講義が中心であり、学生が受け身の講義になりがちである。講義中に板書する時間を取り入れて、ノートや配布資料に学生自身が書き込むような講義スタイルの方が、講義中の学生の理解を深めるという意味で望ましいと思った。
- 講義時間中に学生とコミュニケーションを取る必要性を強く感じました。
- 学生自身に演習問題の解説をやらせるのは良い工夫であると感じた。自分の科目でやるのは時間的に厳しいかもしれないが、なるべく双方向性は持たせたい。
- ・板書の仕方や文字の大きさ・座席指定方式は効果的かもしれない。

(環境共生学科)

- ・学生の表情や行動に十分注意し、講義内容に興味が出るような配慮を行っていきたい。その際、過去の講義内容との関連を学生に確認する等も必要なことと思うが、教室の前列だけでなく後方の学生も含めて対応していく必要性を感じた。
 - ・見やすい板書や学生の立場に立った板書の方法について考えていきたい。
 - ・分かりやすい配付資料の作成に努めるだけでなく、資料の説明に関しても、どの部分を説明しているのかなど、板書と資料の位置関係を明確にし、学生が理解しやすいような解説を心がけていきたい。
 - ・板書にあたっては、座席後方の学生でも十分見やすいように文字の形状や大きさにも配慮していきたい。
- 講義資料に空欄を設けて配布し、授業中に学生自身で記入させる方法は、重要な箇所を認識させる効果があると思います。準備は大変ですが。ただ、これは予備校や受験参考書でよく行われている手法であり、学生の思考の自主性を涵養することにはつながらない恐れもあると思います。
- ・扱う講義項目の範囲が広いので時間的に難しいですが、計算のテクニックのみならず、可能な範囲で対応する物理現象とからめて説明するよう工夫したいと思います。
 - ・問題演習のウェイトをもう少し増やせないか調整したいと思います。
- 過去の授業の復習や、発展的な演習問題の時間をとるなど、色々と工夫をされており、自分の授業の中でも取り入れてみたいと思いました（時間的にかなり厳しいのですが。。）。
- 最後列で聞いていたが、声が聞き取りづらかった。聞きづらければ、前の方に座ってほしいと思うのだが、そうしない学生も多い。聞こえない事を前提で、別の授業のレポートなどを作成している学生もおり、他の先生の授業を参観させていただいて、初めてこれらのことに気付いた。自分の授業でも、教室全体に気をつかうようにしようと思った。
- 毎回、提出用紙を出させるスタイルはどこかで参考にしたいと思います。あとは頻繁に見回りをするので、内職をしようとする学生の防止にもなるでしょう。
- 参観した講義内容は極めてアカデミックであり、分厚い教科書(訳本)を用いていた。講義では丁寧に全て教えることは困難であり、その本質に絞って解説していたと思う。自分が担当する講義はどちらかというと実践的なものであり、教科書にしても大きくスタイルが異なるが、時折変化させて、飽きのこない講義になるよう努めたい。

【質問2 に対する全回答】

（機械工学科）

- 同じ講義を見学した他の先生がどのような感想を持ったかを知りたい。見学後のわずかな時間でも話ができれば、自分が気づかなかった事や文章にしづらい問題点などの意見交換となると思います。今回は見学時に一人でしたが、数名でまとまって見学するのもいいと思います。
- 授業参観の実施についてという文書の実施目的に記載された内容は、よく言えば非常に謙虚で向上心あふれる姿勢ということになるかもしれませんが、あまりにも大学教員としての自信も誇りも感じられず、このような意識で学生を前にして大丈夫なのかと思います。このような姿勢の積み重ねが、学生たちになめられる教員たちという状態を作り出している面もあると思います。

単なる授業を行う上での技術の向上というレベルのことに終始するだけでなく、「大学教員とは」ということに立ち戻り資質の向上を図るのがFD活動ではないかと思います。

あと、上記に比べるとレベルの低いコメントを一点。上記文書に「質問1の回答内容については、公開科目の担当教員に無記名のままお知らせします。」とありますが、あまりにも多くの授業を公開対象としたため、一つの授業の参観者が激減してしまい、無記名のまま知らせるといったところで、書いた人の特定は容易になっています。事実、私が参観した授業も参観者は1名でした。そもそも無記名にする必要は無いと思いますし、現状では、アンケートは無記名という形式にのっとっているだけに思えてなりません。

- オープンクラスが導入されてから既に何回かが経過しており、新人以外の先生は毎年出る必要が無いのではないかと考えていますがいかがでしょうか。
- ・経験豊かな教員の方々の授業を参観することは、授業をより良いものとするために有効であると思われるが、すべての授業を授業参観の対象とするのではなく、各学科で数科目程度とするのがよいとた。
 - ・授業を直接参観するのではなく、録画した授業を大学Webページから聴講できるようになれば、授業参観への負担が低減されると思われる。
- 社会における問題や実際の会社の技術者の行動などについて実例を用いて説明されている点がすばらしいと感じました。
- 多くの事例を示されている点が参考になりました。
- ・講義を行う際に参考となる点を学ぶことができたり、普段見落としている点にも気づかされたりすることがあるかと思うので、授業参観は効果の期待できる改善方法だと思う。
 - ・気がかりな学生や学科の学生全般の他講義における様子を観察することができる

という点でも、授業参観は効果のある制度だと思う。

- 担当教員と学生以外の第三者の目から見た意見を聞くことは今後ますます重要となるかと思う。また教員同士がお互いの講義内容にもっと関心を持つように心掛けることが必要かと思うので、授業参観は今後も継続していくべきだと思う。
- 今回の授業参観に参加頂き、いい勉強になりました。
- 実施が全体の授業が対象となってから、参加が楽になりました。今の形式がいいと思います。
- ・他の先生方の講義を参観させていただくことで、自分が担当している授業について改善すべき点が明確になると感じた。
 - ・参観者の少ない講義があったため、無記名式のアンケートでも匿名性が損なわれてしまうのではと感じた。
- 今後も、継続的に実施するべきである。
- 今後も、継続して実施すべきである。

対象を特に限らずに全体とすることによって、時間の拘束が緩くなったので参加がしやすくなった。

他学科の授業を一部受講しやすい仕組みを作ってほしい。例えば、他学科で受賞した講義を積極的に参観するように呼びかけるとか。
- ・これまでは授業参観を後期にのみ行っていたが、前期と後期を交互に行うことが良いと思われます。
 - ・他の教員の授業を参観することで、自分の講義にも反映させることを期待するのであれば、学期の前半に授業参観を実施したほうが良いと思われます。
 - ・(授業参観の内容ではありませんが) 12番講義室の左面(窓側)は筆記の際にがたつくように思います。授業参観の際にも音がしており気になりましたので、修理していただくことを希望致します。
- 例え20分であっても、他の雑務もあり、各教員の自由に取れる時間が細切れになっていることも問題である。毎年続けて実施するのであれば、1科目で十分ではないか。
- 今回参加した2つの講義はともにパワーポイントを使わず、板書のみで行っていた。板書の仕方には、いろいろ流儀があると思うが、今回参加した講義では、いずれも見やすく、参考になった。他学科では、パワーポイントを多用しているところもあるそうで、やはり数式を多用する本学科では、板書のほうが適切であると認識した。
- 昨年と同じ感想ですが、自分の授業と異なるスタイルの授業を見学すると、やはり刺激になり、良い部分を取り入れようと思う。
- 特定の期間だけでなく、いつでも参観出来るようにしてほしい。

講義だけでなく、実験なども参観できるようにしてほしい。

(電気電子システム工学科)

- 最近この企画も少しマンネリになってきているので、何らかの工夫が必要に思う。
例えば、新人教員は多めの参観ノルマを課すとか。
- 授業参観はされる方もする方も意味があると考えられ、今後も定期的に行うことに賛成である。
- 授業参観自体は良いことであると思いますが、なかなか時間が取れないのが現状です。今後も活用したいと思います。
- 他の先生の授業を見学させて頂いて、各先生方が工夫していらっしゃる点がわかり大変役に立った。
- 講義室の後ろに別の先生が参観していると、学生だけでなく講義する先生も良い緊張感を持って聴講、講義しているようなので、オープンクラスは継続実施するべきと考えます。
- 参考になるので、よいことだと思う。
時期的にもう少し早い方が一連の講義の中心的部分を見学することができるので適当ではないかと思う。(一連の講義で、初めの方は助走的部分が行われる確率が高く、終わりの方は付加的部分が行われる確率が高いので。)
- 年2回であれば負担も少なく、よい行事と思います。
- 良い講義を行っている教員の講義を授業参観できることは、自分自身の講義の方法を見直す良い機会となると思う。今後も継続してオープンクラスを実施してほしい。
- 率直な意見を出してもらうための無記名式アンケートと考えますが、メールで提出させるのは率直な意見は出しづらくなると思います。(そこに狙いがあるのかもしれませんが。)
- これまで私は毎年アンケートを提出してきましたし、他の先生からのアンケートの結果もいただいていたので、授業参観は問題なく実施されていると思っていましたが、昨年度の提出状況を知らされて愕然としました。

(情報システム工学科)

- 非常勤講師の先生方の講義も開放されていてとても良いと思います。
参観者が少ない講義は、誰がアンケートを書いたのかがわかりますが、全部記名式にしても良いのでしょうか。その方が、講義の方法論などを議論するスタートポイントに出来るように思いました。
- 2つの講義を参観したが、他に参観されていたのはお一人だけだった。もう少し、一つの講義あたりの参観者数が多くなるようにしてもよいと思う。
- 教員の感想・意見をフィードバックすること自体は良いことだと思うが、今のやり

方だと科目あたりの参観者が少ないので、無記名にする意味がなくなってしまう。ある程度曜日や時間を絞るなどしたほうが良いのではないかと思う。

- 特にありません。現状のままでよいと思います。

(応用化学科)

- 得意な内容に偏らないで、教育目標に沿った講義内容にして欲しい。やさしい化学の内容よりも原理や化学の考え方を講義して欲しい。
- 継続に賛成。緊張感があって良い。
- 授業参観も一巡したので、限りある時間を他のことに使うことを考えてもよいのではないのでしょうか。
- 学科内の「科目間連携委員会」を通じ、関連する講義内容のシラバス上でのチェックは半期ごとに行っていますが、具体的講義方法については見る機会が「授業参観」を除きありません。この側面からは、たとえ短い時間の参観でも当該の先生が学生をどのレベルで捕らえているかを考える参考になります。一方、比較的関連が低い教科についても、これを機会に教える内容とそのレベルを知る方法として利用しています。
- スタイルの異なる講義を見学することは、自分の講義構成を考える際に非常に参考になると思いました。
- 推奨する授業を明示すべきである。
- 有意義であるとは思いますが、毎年やるべきとは思わない。人により少しずつ講義スタイルが異なるが、それほど大きな違いがあるようにも思えないので、毎年開催しても、得るところは少ないと感じる。
- 今回は所属学科の中堅教員の講義を参観したが、今後は他学科の講義を参観してみたいと思っている。
- 授業参観の実施自体は教員の間でもかなり浸透してきたので、講義を半分ずつに分けて隔年で交代するなどして、もう少し1つの講義あたりの参観者数を増やし、内容を密なものにしてもよいかと思います。
- 感想や意見をメールで送信することに抵抗がある。せっかくの無記名アンケートであるのに、誰がメールでその意見を送ったのかを特定されたのでは、忌憚のない厳しいコメントや批評ができなくなるのではないか。学内便などを活用すれば、学科単位のアンケート実施状況も十分把握できると思う。もちろん無記名提出が、誹謗や中傷に繋がるというのであれば致し方ないとは思いますが。
- 授業を参観できることは大変参考になることも多いです。ただもう少し日程に余裕があると、いろいろな授業を参観できてよいです。
- 他の先生の講義を聞くのは新鮮で、自分の講義を改善していく上で必要なことだと考えさせられました。

(機能材料工学科)

- オープンクラスは各教員が講義を客観視し、改善するよい機会だと思いました。
- 複数回に分けるなどもう少し見学期間に幅があると自分の予定を調整して見学したい授業に参加できると思います。
- ここ数年に渡って授業参観が実施されてきましたが、昨年度から全講義が対象となり、選択肢が大幅に広がったこともありますので、自学科のみならず他学科の講義を聴くことを積極的に推奨したいと感じました。特にベストレクチャー賞を受賞されている先生方は講義内容は別としても、講義の進め方などはやはり評価されるだけのことはあると思います。
- 受講者がこちらの話を聞いていない、自分自身で書いたノートの中身の意味を考えようとしてもしない、という次元の受講者が多いので、その対処法を知りたいところです。これは、短時間の授業参観で分かることでもないのですが、どうしようもありませんが、FDとしては課題ではないかと思います。
授業参観の実施については、テクニカルな理由（板書の書き方、喋り方、など）で学生の授業評価が低くなっている方もいらっしゃると思いますので、そういう方は参観する方が良いと思います。逆に、そこそこの講義をやっている人にとっては、この短時間の授業参観で得られるものは少ないのではないかと思います。
- 自由に気楽に他の教員の講義を聴けるという意味では、有意義である。聞かれる方としても一定の緊張感があり、悪くはない。期間を限って行う今回のようなやり方は、非常に好ましいと考える。
- 参観出来ることは良いことであるが、ノルマになるとやや忙しい思いがする。
- すでに、一定期間行っているために形骸化しているのではないかと感じます。廃止を含めて再検討していただければと思います。
エアコンの使用は開始時期にある一定の規則があった方がいよいと感じました。
- 授業参観自体は、正直を言えばあまり賛成ではありません。
恐らく、15回の授業を全て通して聞いて、初めて評価できる部分もあるでしょうし、学生対1人の先生だからこそ出来る(集中力維持のための)「遊び心のある話・雑談」や(授業開始時にリラックスさせるための)「例え話・時事話」などは、ある種の授業テクニックではあるものの、あまり大人の教員に聞かせる話ではないと思います。また、授業観覧を一定期間に強制化させることは、殆ど意味がありません。他の人の授業を聞いて学びたい教員は、自発的に行うはずでしょうし、かえって見学した授業の先入観により、授業スタイルの多様化を妨げる可能性も有ります。
そうしたことで各教員の授業戦略、独自性のある授業スタイルの確立を狂わせる可能性も有りますので、授業参観自体の実施は慎重になって頂きたいと思います。
- 理工系と言うこともあり、具体的な実験データ等をパワーポイントにより効果的に示す方法を試行したい。

(建設工学科)

- 優良授業のみに絞っての参観で宜しいのでは？
- 各先生の工夫を見ることができ、講義の改善に有意義と思います。
- 他の皆様の講義は参考になります。
- 他の教員の講義を参観するのは大いに参考になる。
- 別の学科の講義も参観させていただくことができ、大変勉強になりました。ベストレクチャー賞の紹介もされていたので、参観の参考にすることができよかったです。
- 他の先生方の授業を参観するのは、先生方の専門もわかり、自分のためにもなります。

(環境共生学科)

- 今後も続けて頂きたいと思います。
- アンケート(a)を匿名で行っても、授業をしている教員が参観者に気づき、もし他に参観者がいなければ、結局は個人を特定できるため、強い批判は書きにくいという意見があります。アンケート(b)だけで十分だという意見も多いと思います。学生による授業評価に基づいて教員を表彰することもやめた方が良いという意見があります。上記②のように、誰でもわかるような予備校式の授業を行えば授業評価は上がるため、一方では難しい内容を学生に自分で考えさせる授業が低い授業評価を受けやすくなるという弊害につながりかねません。評価をすること自体が目的化しつつあるのではないかと懸念します。
- 授業参観の実施についてはではないのですが、工学部講義棟は、ホワイトボードに蛍光との光が映り込んでしまい、かなり文字が見づらく感じました。映り込みを少なくする工夫はないでしょうか
- 行くまでは気が重かったが、行ってみて為になった。行っていない教員にこそ、参加してほしい。やるならば、全員に徹底してやるべき。教員活動報告に、オープンクラスへ参加したかどうかの項目をもうければ、もう少し参加する人が増えるかもしれない。
- 特にないが、とかく後から席が埋まる国内学生の習性を改善させるためにも、後2列は授業参観専用席としたらどうか？